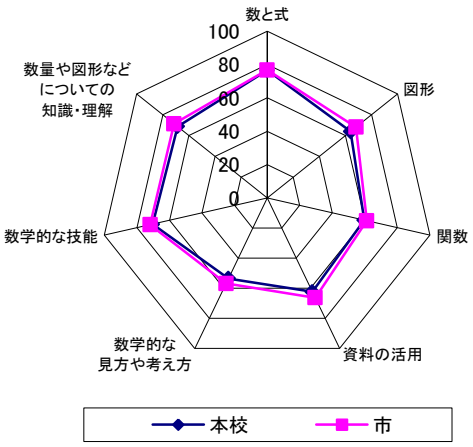
宇都宮市立陽東中学校 第３学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	76.6	76.7	72.6
	図形	64.0	68.1	63.8
	関数	59.6	61.2	54.4
	資料の活用	62.4	66.3	55.4
観点別	数学的な見方や考え方	53.5	56.8	50.8
	数学的な技能	70.5	71.9	66.7
	数量や図形などについての知識・理解	68.7	71.4	63.6

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○市の平均値とほぼ同じで、他自治体よりも定着していると思われる。 ○分母の有理化ができることが市の平均値よりも7.1ポイント上回っている。 ○因数分解を使って、2次方程式を解くことができることが市の平均値よりも2.3ポイント上回っている。	・乗法公式を利用した展開や因数分解の計算練習を徹底して行い、さらに定着を高めていきたい。 ・平方根の計算については、平方根の意味も含めて指導をしていきたい。 ・2次方程式の解法だけでなく、活用についても時間をかけて指導していきたい。
図形	●市の平均値と比べると、4.1ポイント下回っている。 ●2辺から距離の等しい点の作図（核の二等分線）をすることができることが市の平均値よりも5.6ポイント下回っている。 ●三角形の合同を証明することができることが市の平均値よりも5.6ポイント下回っている。	・証明に対する苦手意識の強い生徒が多くみられるので、証明の流れ、証明をするための知識（三角形の合同条件・図形の性質）をしっかり身につけさせたい。 ・基本的な作図をしっかり身につけさせるために、小テストなどを繰り返していきたい。
関数	●市の平均値と比べると、1.6ポイント下回っている。 ○問題の条件に合う座標を求めることができることが市の平均値よりも1.3ポイント上回っている。 ●xの2乗に比例する関数のグラフ上の点の座標を求めることができることが市の平均値よりも4.2ポイント下回っている。	・関数における用語は、式・表・グラフのそれぞれの中での意味や役割を理解していくことが大切である。この3つの関連性を、授業の中で指導する場面を意図的に設けていくよう心がけていきたい。 ・グラフを書くこと、式を求めることについてはドリル練習をさせ、小テストや確認テストをこまめに実施していきたい。
資料の活用	●市の平均値と比べると、3.9ポイント下回っている。 ●2つのヒストグラムを比較し、どちらの織り方の飛行機を選ぶか判断し、その理由を説明することができることが市の平均値よりも7.1ポイント下回っている。 ●ヒストグラムの幅を求めることができることが市の平均値よりも5.7ポイント下回っている。	・統計に関する用語や基本的な知識を定着をしっかり身につけさせたい。 ・いくつかのデータを比較・検討し、よいものを選択・判断し、その理由を説明する力を身につけさせるため、小集団の話し合い活動の時間が取れるようにしていきたい。